

ほたるの名所と言われるいくつかのスポットでは、多くの人が生育地域に入らなかった影響で、今年は生育状況が良いと聞きます。ほたるの光がみなさまの心を照らしますように。

現在会員登録数 3,358 人さま。次回は7月1日に特別号 NO.3、7月21日に NO.119 を発行の予定です。／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

■-----
【1】お知らせ
■-----

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」

<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>

「YouTube 版 の海大冒険」(絵本編、読物編、YA編、科学編)は、毎週金曜日に2本ずつ配信中！また、大人向けに紹介する「新刊子どもの本 ここがオススメ！」は、毎月10日に配信。今後も、総括専門員・土居安子を中心に、新しい子どもの本を紹介していきます。ぜひ、ご覧ください。

チャンネル登録もお願いいたします。

公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html

<大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO>

<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>

● 財団の出版物を販売しています

『大阪国際児童文学振興財団 研究紀要』第33号

発行：当財団 2020年3月 A5判 183頁 1600円＋税

『2019年度国際交流事業報告集

国際講演会：韓国の絵本作家パク ジョンチェの絵本を語る

子ども向けワークショップ：パク ジョンチェさんと絵本をつくろう！』

発行：当財団 2020年3月 A4判 42頁 1000円＋税

『2019年度講演会報告集

紙芝居の歴史から子どもの読書文化について考える 講師：浅岡靖央』

発行：当財団 2020年3月 A4判 34頁 800円＋税

詳細、その他の出版物は ↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/05_publication/index.html#hanbai

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■ ----- ■
【 2 】 コラム
■ ----- ■

《 1 》 この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『秘密のノート』 ジョー・コットリル/作 杉田七重/訳 小学館 2020年
6月 対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：11歳の少女ジェリーは化粧品販売をするママと二人暮らし。ものまねがうまく、クラスでも人気者だが、実は、肥満であることを悩み、誰にも言えない気持ちを秘密のノートに詩として綴っていた。ママはジェリーが嫌いな恋人クリスと別れてパブで音楽を演奏するレノンと付き合い始め、ジェリーはこれまでのママの恋人とは違うレノンに打ち解け、自分の詩を見せ、レノンはその詩を元に歌を作ってくれる。学校のタレントショーでもものまねの代わりにその歌を歌おうと決心するが、クラスでふざけすぎてショーの出演が禁止になってしまう。

Y：主人公のジェリーが自分の外見や母親の不安定な精神状態などのストレスを、食べることで、誰かのものまねをしてみんなに笑われることで解消しようとしている姿が胸にぐさっときました。日本の子どもたちが自分をキャラ化して防備している姿と重なります。

T：母親の精神が不安定な原因として、母親の父、ジェリーの祖父が男尊女卑の考えの持ち主で、妻や娘を徹底的に馬鹿にした態度をとるといことが出てきます。かなり極端ですが、日本にもまだまだこういう男性が大勢いるということを考えると、この点も日本の読者にとって意味のある作品だと思いました。

Y：ジェリーの母親はレノンに出会うまで、とんでもないボーイフレンドばかりと付き合っており、ジェリーはそのことを心配し続けます。

T：父親を拒否しながらも、父親に似ている男性を選んでいたように見えます。

Y：そんな中、ちょっとできすぎと言えるかもしれないレノンに出会って、ジェリーも母親も大きく変わります。

T：レノンは、ジェリーが詩を書いていることを知り、その詩に曲をつけます。そして、たまたまジェリーが初潮を迎えた日に、最初に立ち会うこととなります。その描かれ方がとても自然で、これまでに読んだことのないエピソードだなあと思いました。

Y：ジェリーは、レノンに詩をほめてもらうことによって、自分の言葉を少し信じられるようになり、初めて祖父に言葉で抗議します。ジェリーがとてもたのしく見えました。

T：一つの山場ですね。

Y：この作品は、ジェリーがタレントショーに出られるか、母とレノンの恋愛

がどうなるかなど、読ませる要素がいろいろとあります。
T：表紙の絵や装丁はかなり女子読者を意識しているように見えますが、男子にこそ、この本を読んでほしいなあと思います。

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第58回「毒蛾」

実際に起こった問題に材を得た童話

宮沢賢治が、現実に関わった問題に材を得て童話を創作したことはよく知られています。今回取り上げる「毒蛾」は、その一つです。

文部局の巡回視学官の〈私〉は、出張先のイーハトヴの首都・マリオで、毒蛾襲来に出くわします。新聞を賑わせていたその〈小さな黄色な毒蛾〉に刺されると、そこが〈ずんずん赤くはれて行〉き、〈しきりに変な形になって行く〉のです。

滞在先のホテルは窓を閉め切っていて、〈肥ったふくろふのやうなおぢいさん〉が給仕を怒鳴りつけており、気分転換のために出かけた床屋では、〈理髪アーティスト〉がその技術を発揮しているさなかに隣の客が毒蛾に刺されるいざこざがあり、町に出ると撃剣の先生が消灯を警告してまわっています。

その後、十里ばかり南のハームキヤへ移動した私は、視察先のコワック大学で毒蛾を顕微鏡で観察する3人の教師と出会い、毒蛾一匹捕まえるのに4時間もかかったこと、ハームキヤでは毒蛾の被害が殆どなかったことを聞いて大いに笑った、というものです。

この物語は、大正11（1922）年7月に盛岡を中心として発生した毒蛾襲来に材を得ています。マリオとは盛岡、ハームキヤは花巻、コワック大学は、賢治が奉職していた当時、「桑っこ大学」と揶揄されていた花巻農学校だと言われています。

作品のおもしろさは、やはりマリオとハームキヤの対比ではないでしょうか。大都会のマリオでは多くの人々が刺され、あれだけ大騒ぎしていた毒蛾が、移動先のハームキヤでは蛾の捕獲にも苦心し、一匹を巡って学者が3人も大まじめに観察しているという構図。そこには、どこか社会と隔絶した科学者の世界がユーモアを交えて描かれているようです。少し失敬と思いつつも、それを笑い飛ばす視学官にも〈明らかに書き手の眼差し〉（木村東吉）があり、学者や作家としての視線のいずれもが、この作品を成立させているように思われます。

ところで、以下は毒蛾が発生する幻想的なマリオの風景です。

〈大きな西洋造りの並んだ通りに、電気が一つもなく、並木のやなぎには、黄いろの大きなラムプがつるされ、みちにはまっ赤な火がならび、そのけむりはやさしい深い夜の空にのぼって、カシオピイアもぐらぐらゆすれ、琴座も臙にまたゝいたのです。どうしてもこれは遙かの南国の夏の夜の景色のやうに思はれたのです。〉

当時の盛岡を見つめる賢治の視線が感じられる作品です。なお、本作の一部はのちに「ポラーノの広場」に組み込まれました。（ペ吉）

（本文の引用は、ちくま文庫版『宮沢賢治全集』第5巻によりました。）

《3》子どもの本の珠玉のことば 12

「母さん、どうしてエレベーターに乗らないの？くたびれちゃったよ」すると、母さんは答えた。「あのエレベーターは弱い人たちのためのものなんだよ。あたしたちは、階段を上るから丈夫でいられるんだ」って。でも、この詩は、なにかそれ以上のことを言ってる気がする。

（『ハーレムの闘う本屋 ルイス・ミシヨーの生涯』ヴォーンダ・ミシヨー・ネルソン/著 R・グレゴリー・クリスティ/イラスト 原田勝/訳 あすなろ書房 2015年2月 p.69）

これは、1939年～1975年までハーレムで黒人の本だけを扱った本屋を営んでいたルイス・ミシヨーの伝記的な作品に出てくることばで、この本は、短い章ごとに語り手が異なります。その中には多くの実在した人物が含まれますが、この部分の語り手であるスヌーズ（いねむりの意）は、高校を中退した10代の少年で、著者が創造した人物であり、その母も同様です。

この場面は、通りを歩いていたスヌーズをルイス・ミシヨーが自分の本屋に誘い込み、黒人の詩人ラングストン・ヒューズの『夢の番人』を紹介した場面で、スヌーズは、本書の原題「No Crystal Stair」の元になった詩を読んでいるところです。スヌーズは、母が階段を使うことと、詩の中で、語り手が息子に向かって「わたしの人生は水晶の階段じゃなかったけれど」「上りつづける」といい、息子に「引き返してはいけない」と告げていることを重ねています。

スヌーズは、「なにかそれ以上のことを言ってる」と言っていますが、私にとっては、スヌーズの母のことばこそが、心にささりました。働きづめで疲れていても、自分のできるぎりぎりまで、自分の力で階段をのぼり、それを誇りとする。そのことを息子に身をもって教えるスヌーズのお母さんの強さは、ハーレムで生きてきた多くのアフリカ系の人たちの強さにつながるのだと思いました。

この本を読むと、暴力ではなく、ことばを、知識を、本を、と訴え続けたミシヨーの一生に心をうたれ、Black Lives Matter のことばの意味に少しだけ近づける気がします。（Y）

《4》 行って来ました！

和歌山県立近代美術館で6月28日まで開催されている企画展「もようづくし」に行ってきました。縄文土器などの考古資料や、版画、油彩、シルクスクリーンなどの絵画、陶器など、日本の作品から海外の作品まで約200点が、第1章「人のいとなみと模様」、第2章「模様化と抽象化」、第3章「模様を引用す

る」、第4章「模様再考 具象・抽象を超えて」の4章の構成で展示されています。

私にとっては特に第1章が興味深く感じられました。江戸時代に和菓子の図案として描かれた草花や鳥の絵（「駿河屋絵手本帖」）、そしてそれを元にして作られたであろう「駿河屋菓子木型」、喜多川歌麿の浮世絵の中の着物の柄、草間彌生のピンクに白の水玉模様の犬の立体作品、「ろまんちっく手摺千代紙」など、いわゆる日用品から芸術作品までありとあらゆるものがあり、そのどれにも「もよう」があることに、あらためて気づかされました。

2章から4章までは、その模様を芸術作品として表現している作品が紹介されていて解説を読みながらなるほどと思いました。おまけとして、「ちょっとよりみち 身の回りにある自然の模様」コーナーもあり、写実的な魚の絵や鉱石や蝶の標本などが展示されていて、自然の中にある「もよう」を感じることができました。

絵本を見るときにも「もよう」という視点で見るとまた新しい発見があるかなと思いながら帰路につきました。（K）

■ ----- ■
【3】全国のイベント紹介

● 大竹英洋写真展 ノースウッズー生命を与える大地ー
会 場：富士フィルムフォトサロン大阪（大阪市中央区）
会 期：6月26日（金）～7月9日（木）午前10時～午後7時 6/28は休館
入場料：無料
主 催：富士フィルム（株）

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓
http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html
※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください
※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■
【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『秘密のノート』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.118 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。
締切は7月10日（金）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |
— | — | — | — | — | — | — | — |

県境を越えての移動自粛が続くなか、ウォーキングが日課になっています。そのおかげで、半世紀以上住んでいる地元ながら、初めての道を通って初めての場所にたどり着くなど、新たな発見があります。レトロな雰囲気のリ

ガ造りの高架橋や水門、ユニークな意匠の建物を見つけたり、路地の出口が想定外の場所だったりするなど、コロナ禍がさらに緩和し梅雨が明けても、ウォーキングのとりこになりそうです。(T A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
